

鳴門渦潮 序盤集中打

生光学園 追い上げ及ばず



【生光】打安点

⑦	岡元	5	3	0
⑨	李保	4	0	0
H	森本	1	0	0
⑥	吉田	4	2	0
③	空石	4	3	1
②	石村	3	1	0
①	手谷	5	1	1
H	井入	0	0	0
H	田代	0	0	0
H	守藤	1	0	0
H	村	1	0	0
H	木	2	1	0
⑤	久保	4	2	2
④	小南	4	2	0
振球	盗	8	4	0
犠	盗	0	3	1
2	3	1	2	3

【渦潮】打安点

④	田上	3	0	0
①	河村	4	1	0
③	三原	3	0	0
②	佐藤	4	4	3
⑦	福島	4	2	4
⑥	森本	4	3	0
⑨	森本	4	0	1
⑧	日高	3	3	0
⑤	高木	4	3	0
振球	盗	3	4	2
犠	盗	0	3	1
2	3	1	3	1

▽本塁打—佐藤(奥濱)▽三塁打—福島▽二塁打—小南、大久保2、吉田、佐藤、河村、森本、福島▽捕逸—空處2▽失策—生0、渦1▽残塁—生11、渦7▽試合時間—2時間31分

回	安	責
1	1	3
1	1	3
5	1	6
6	3	10
7	3	13
3	3	20

手谷代藤 眞村
 投入田香興 日河

◇JFAアグリあなんスタジアム
 ▼準々決勝(第1試合)
 生光学園00001030000
 鳴門渦潮4300000100×8
 【評】鳴門渦潮が序盤の攻勢で流れを決めた。

鮮やかな先制攻撃

鳴門 渦潮

鳴門渦潮の打線が序盤から火を吹いた。一回、河村、三原が連続四球を選んで好機を築くと、「力まずに変化球をたたいた」という佐藤が左中間を破る二塁打を放つて先制。福島も二点適時打で続くなど、この回4点。二回も攻勢は続き、生光学園対鳴門渦潮 1回裏、鳴門渦潮1死一、二塁、佐藤が左中間二塁打を放ち先制する。JFAアグリあなんスタジアム(家段良匡撮影)

高木の右前打を皮切りに中軸の連打などで3点をもぎ取った。1、2回戦ともに一回に得点できなかったため、選手たちは試合前に「きょうこそ先制して流れを呼び込もう」と誓い合ったという。折しも、相手は昨年の秋季大会で苦杯をなめさせられた生光学園。雪辱に燃えるチームの士気は高く、狙い通りの試合展開に持ち込めた。六回には生光学園が猛攻を見せ、3点差に追い上げられたが、すぐ後の

七回には4番の佐藤がインコース高めのスライダを左越えに連発ソロ本塁打。嫌な流れを断ち切った。打線の大量援護に込め、日高、河村の投手陣は計12安打を浴びながらも、粘りの投球で要所を締めた。勝負どころで三振を奪った河村は「打線もいい感じにつながっている。強気の投球で次も勝利に貢献したい」。投打のかみ合った鳴門渦潮が、さらに勢いを増した。(石川浩行)

一回、1死一、二塁から佐藤、福島、森本の3連続長短打などで4点を先制。二回は福島の2点三塁打などで3点を追加し、七回にも1点を奪った。生光学園は六回、大久保の2点適時二塁打などで3点差に迫ったが、七回以降は追加点を奪えなかった。

生光学園・大久保陽平(2点適時打)「一回に失点を招くいつもの悪い流れになってしまった。それでも中盤は選手たちがベテランを盛り上げて、いい追い上げができた」



生光学園・大久保陽平(2点適時打)「一回に失点を招くいつもの悪い流れになってしまった。それでも中盤は選手たちがベテランを盛り上げて、いい追い上げができた」